

<p>第252回 都市懇サロン レポート</p>	<p>環境指標は「省エネ」から「健康」へ ～スマートウェルネスオフィス～</p>		
<p>講師</p>	<p>千葉大学大学院 准教授 林立也先生</p>	<p>開催日</p>	<p>2021年7月13日(火) 18:00~20:00</p>
<p>講師 プロフィール</p>	<p>東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士 後期課程修了(2001年)後、株式会社日建設計、 日建設計総合研究所に勤務し、2013年9月 より現職。CASBEEの開発に委員会幹事とし て参加。その他、SDGs-スマートウェルネ スオフィス研究委員会幹事などを務める。</p>		
<p>お話の概要</p>	<p>オフィスの評価基準として省エネに健康性を加味した CASBEE-スマートウェルネ スオフィスについて説明いただいた。</p> <p>1. 建築・都市分野の省CO2推進の政策 ⇒ パリ協定で温室効果ガス削減の目標が高められたなか、政策面での取組が進ん でいるがLEDや省エネ家電の普及によるもので限界があるだろう。BELSは住宅で は進んでいるものの、非住宅建築では少なく、投資メリットを感じないのだろう。</p> <p>2. スマートウェルネス ⇒ 健康経営が普及しているなか、健康・快適性が知的生産性につながるものであれ ば、企業も投資し、不動産市場も取り組む。そこで健康、生産性、ZEBをすべて内 包するスマートウェルネスオフィスを提唱している。</p> <p>3. CASBEE-ウェルネスオフィス ⇒ 従来のCASBEEは環境負荷低減と環境品質を評価していたが、CASBEE-ウェルネ スオフィスの評価対象は、環境負荷低減を省き、環境品質に健康増進や知的生産 性の観点を加えている。</p> <p>4. ウェルネスオフィスの普及に向けて ⇒ 普及のためには利用者の生産性が上がり、経営者が借りるようになり、その需 要に対して不動産が供給される循環をつくる必要がある。調査したところ健康・ 快適性と労働生産性は相関があり、企業、不動産市場も需要が見られる。評価に よって見える化されれば普及するだろう。</p> <p>5. まとめ：建築から都市へ ⇒ 建造物は人のふるまいや生理に影響を与える。そういった影響が健康や生産性 に影響を与えている。建築だけでなく、都市を健康性に配慮してつくっていくこ とも大事である。</p>		
<p>意見交換 の概要</p>	<p>・スマートオフィスとは具体的にどのようなものか。 ⇒ 内装が優れたものをイメージされているかもしれないが、評価の一部であり、 基本的な性能がしっかりしていることが大事である。</p>		
<p>記録者の ひとこと</p>	<p>都市計画においても健康まちづくりが進められようとしているが、個々の建造物も 健康性に配慮されることで相乗効果が期待される。 <p style="text-align: right;">≪都市懇サロン運営部会 委員 氏原茂将≫</p> </p>		